

発行/モザイク会議 議長 情野良夫 tel:080-1260-7972

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/ Email:maaj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

「国際陶磁器フェスティバル美濃」

関連イベントへの参加（ほぼ）決定！

2011年「タイルの街」という企画で陶磁器フェスティバルに参加しました。

今年また、9月から10月にかけて同じフェスティバルが開催されます。

今回は「巡回展」と「モザイクベンチ」を来場者参加型で作る案で参加提案しています。

ベンチのデザイン案を募集します。

企画内容

会場・セラミックパーク MINO

主催・モザイク会議



○セラミックパーク内にモザイク会議の展覧会の選抜作品 15 点を飾る

○来場者参加型のモザイクベンチを来場者参加で制作

○完成したモザイクベンチは寄贈し笠原町内に設置する

期間・2017年9月20日（水）～10月22日（日）

展示内容・モザイク展 2017 の選抜展（9月20日より10月22日まで）

モザイクベンチの公開制作（毎週土日3回）9月23～24日、

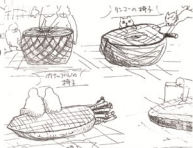
9月30日～10月1日、10月7日～8日。完成したベンチ展示 10月22日まで

搬入・設営9月19日

「モザイクベンチ」デザイン公募



作例・果物をテーマにデザイン。(岩田画)



ベンチの構造

発泡ウレタン（スタイロフォーム）
と軽量セメント板（ALC）を組み合わせて
土台を作り、全体をガラス繊維のネットで
葎って、セメントモルタルで下地を作る。
背もたれはなし。

3人掛けベンチ 3点 : W1200 x H400 x D400 程度

一人掛けスツール 3点 : W400xH400xD400 程度

素材・陶磁器、タイルおよびスマルト

ベンチは東京で7割程度作り、多治見で完成させます。

スケジュール

5月末日：ベンチデザイン案公募締め切り

6月から8月：国分寺事務所にてベンチの土台作製ならびにモザイク制作

9月：あざみ野の展覧会会場でワークショップを兼ねて制作

9月20日～10月8日までの土日3回：多治見で制作。参加者には滞在補助金があります。

翡翠原石館 (品川区北品川4-5-12)

品川にある翡翠の博物館を紹介します。

「翡翠」は「ひすい」と読みますが、鳥の「かわせみ」とも読みます。羽の色が似ているからようです。



翡翠原石館外観

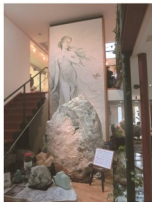
翡翠原石、アクセサリー、工芸品などが展示されています。中には、館長が新潟の親不知海岸を散歩中に散歩中に見つけたという翡翠原石もあって、好奇心を刺激されます。10トンの巨大な翡翠原石から掘り出したダイナミックな造形の浴槽が印象的な総翡翠風呂も展示されています。入口を入るとすぐ、本間洋一氏のモザイク壁画「奴奈川姫」(あながわひめ、W2m X H5m)が飾られています。翡翠を中心に10万個以上の石が使われ、制作に6年かかったそうです。

翡翠は日本では主に糸魚川の流域に産出します。鮮やかな緑色が印象的な石ですが、ラベンダー、青、黒などの色味のものもあります。硬度は6.5～7、大理石の3～5に比べるとだいぶ硬い。

日本では古代勾玉や管玉、大珠などが翡翠で作られている。古代中国、インカでは特に珍重されていて、時には金より高く取引されたそうです。

中国でいう「玉」の代表がこの翡翠。

大英博物館にあるインカのお面を覆っているのも翡翠。



本間洋一氏のモザイク

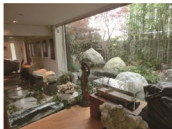
翡翠原石館



翡翠原石から掘り出した浴槽

翡翠原石館は品川駅から徒歩 20 分ほど。現代美術の展示で有名な原美術館から徒歩 2 分ほどの場所にあります。

入場料は 700 円、月曜日と祝日の翌日が休み。午前 10 時から 5 時まで。



1 階



2 階

翡翠原石館 2号館建築中

現在の博物館の通りを隔てた向かい側に2号館を建築中で、外壁は全面御影石のモザイクで覆われます。本間洋一さんから引き継いで、芦田いずみさんがモザイク制作中です。制作について芦田さんに語ってもらいました。



モザイク制作中の芦田いずみさん

「私と翡翠原石館」

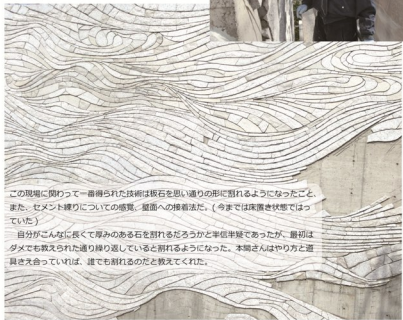
芦田いずみ

モザイクを始めて気付くともう10年位になっていた。私は今までモザイクにおいて個人的な作品の経験しかなく、モザイクが発展した背景である“建築との融合”を知らずに作り続けて良いのだろうかという間と、技術をもっと得たいという欲が高まっていた。

そんな時、前から色々石のことを教えて頂いていた本間洋一さんが品川で一人で現場をやっているという噂を聞き、見学に行った。

その現場はまだ石をはり始めて10%という所で、下図の線がこれからの進行きの面白さと長さを表していた。

もしこの現場に関われたら面白いだろうという思いと、一人でやられていた本間さんを手伝えたらとても勉強になるだろうという気持ちから、本間さんに相談をして現場に入れてもらえることになった。



この現場に関わって一番得られた技術は板石を思い通りの形に割れるようになったこと、また、セメント練りについての感覚、壁面への接着法だ。(今までは床置き状態ではっていた)

自分がこんなに長くて厚みのある石を割れるだろうかと半信半疑であったが、最初はダメでも教えられた通り練り返していると割れるようになった。本間さんはやり方と道具さえ合っていれば、誰でも割れるのだと教えてくれた。



この壁面はカワセミ(翡翠)という鳥が自分の子供の為に飛び立ち、魚を捕らえ、戻ってくるという連の物語を表す予定で、そのカワセミが飛翔するための風のラインが建物全面に白い御影石で表され、要所に飛び立ったり、魚を捕らえたりするカワセミを立体で色石で表す。

私は立体も初めての経験だったので、どういう表現にするか、壁面への設置はどうするか等、自分の考えられる限りの試行錯誤をしながら制作している。建築に関わるモザイクをしたいと欲したときにこんな色々学べる経験が出来たこと、とても幸運に思う。